

雪嶺集

〈宮坂静生鑑〉

炉

小林貴子



パン屋の炉ほがらかな火を熾しをり
綿虫は飛天の笛に乗りゆけり
追悼や玻璃に冬日の全反射
葱畑怒髪天突く人が来る
レノン忌の空やすこんと宇宙まで
レノンの忌新車に革の匂ひせり
松どうと倒れて十二月八日
シュトレンは坑道のこと待降節
天鷲絨のもの憂さありぬポインセチア
子規思ふ明治の聖夜貯チヨ古コ齡レイ糖ト